

2015（平成27）年度 東京大学 入試問題 第4問（文系） 解答例

- 一 猫の世界で自然と一体化して自立している猫の見事な親離れには、生き方のシステムの不変に安らかさを覚えるということ。

- 二 筆者は、野生の掟により猫の寿命は短いと思いながら、苦しむ様子に自責の念から家に入れ、同情して居着かせたということ。

- 三 筆者が汚く臭い病猫の面倒をみるのは、猫に心を拘束されたせいで、無償の愛ではないとかすかに察しつつあったということ。
*この設問では、「慈悲心を引き出される」という説明解答は不可。単に「ボランティア精神・無償の愛ではない」と「薄々感じはじめて」いただけだからである。（逆に言えば、次の第四問で「慈悲心を引き出される」内容に触れていない解答も、不可である）

- 四 病猫の死後、不快なはずの臭気を覚えず懐かしみ、猫に人間の慈悲心を引き出される輻輳した関係性の妙を感じるということ。